2026年度 第2四半期決算について

2026年 11月 4日

© NTT, Inc. 2026

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。

※　本資料中の「E」は記載の数値が計画または業績予想であることを表しています。

© NTT, Inc. 2026

目次

1. 2026年度 第2四半期 連結決算概況
2. 通期業績予想
3. トピックス
4. Appendix

© NTT, Inc. 2026

2026年度 第2四半期
連結決算概況

© NTT, Inc. 2026

2026年度 第2四半期 連結決算の状況

■ 対前年増収・減益
■ 営業収益は過去最高を更新

連結決算状況

● 営業収益	：	7兆 3,622億円	（対前年	＋5,894億円 〔＋8.7%〕）
● EBITDA※1	：	1兆 6,557億円	（対前年	▲848億円 〔▲4.9%〕）
● 営業利益	：	8,301億円	（対前年	▲1,150億円〔▲12.2%〕）
● 当期利益※2	：	5,002億円	（対前年	▲955億円〔▲16.0%〕）

※1　EBITDA及びその内訳の減価償却費について、使用権資産に係る減価償却費を全て除いております。
※2　当期利益は、当社に帰属する当期利益（非支配持分帰属分控除後）を記載しております。

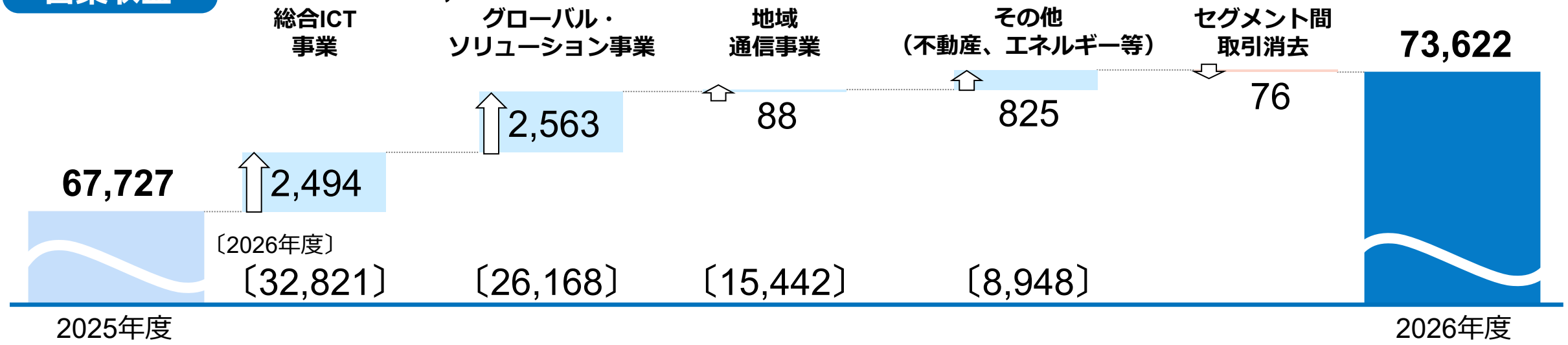
© NTT, Inc. 2026

2026年度 第2四半期セグメント別の状況

営業収益

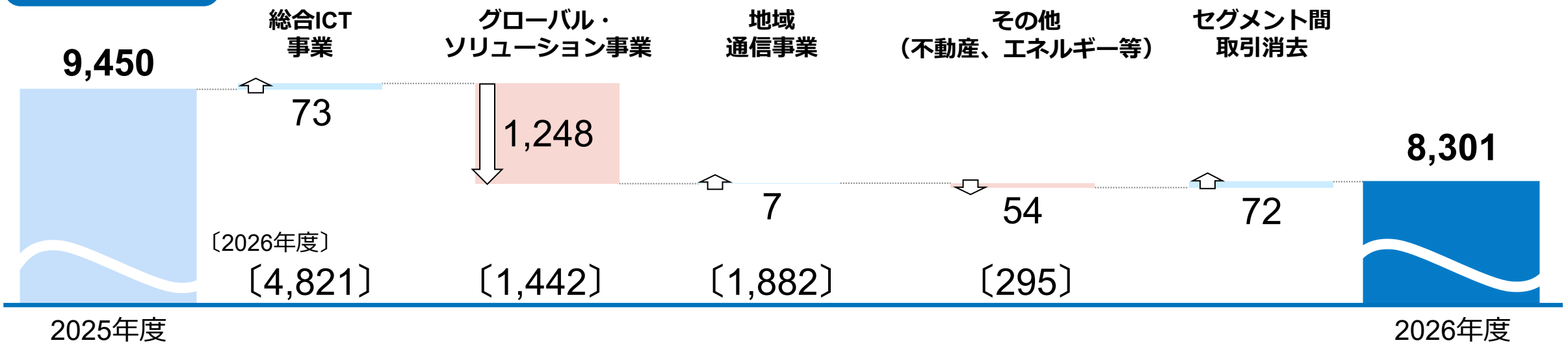
（対前年：＋5,894）

（単位：億円）



営業利益

（対前年：▲1,150）



© NTT, Inc. 2026

通期業績予想

© NTT, Inc. 2026

2026年度 通期業績予想

- ドコモにおける好調な業績を反映し収益・利益を上方修正
- トラヒック増大に対応したモバイルネットワーク品質改善の確実な実行に向け設備投資を増額

連結収支計画等

	当初業績予想 （2026年5月8日公表）	通期業績予想 （2026年11月4日公表）	対当初
営業収益	15兆　600億円	15兆　800億円	＋200億円
EBITDA※1	3兆 4,300億円	3兆 4,500億円	＋200億円
営業利益	1兆 7,100億円	1兆 7,300億円	＋200億円
当期利益※2	9,800億円	9,940億円	＋140億円
設備投資額	2兆 4,300億円	2兆 4,730億円	＋430億円

※1　EBITDA及びその内訳の減価償却費について、使用権資産に係る減価償却費を全て除いております。
※2　当期利益は、当社に帰属する当期利益（非支配持分帰属分控除後）を記載しております。

© NTT, Inc. 2026

2026年度 通期業績予想の概要 (各社別収支)

	営業収益	対当初	営業利益	対当初
ドコモ	6兆 8,410億円	＋200億円	9,630億円	＋200億円
データグループ	5兆 1,900億円	-	4,700億円	-
東日本	1兆 7,350億円	-	2,240億円	-
西日本	1兆 5,050億円	-	900億円	-
アーバンソリューションズ	5,800億円	-	560億円	-

© NTT, Inc. 2026

2026年度 通期業績予想の概要 (各社別設備投資額)

	設備投資額	対当初
ドコモ	9,000億円	＋430億円
データグループ	8,040億円	-
東日本	2,770億円	-
西日本	2,450億円	-
アーバンソリューションズ	950億円	-

© NTT, Inc. 2026

トピックス

© NTT, Inc. 2026

モータースポーツを支えるNTTグループのテクノロジー

- 北米最高峰のモーターレース「INDYCAR」のタイトルスポンサー・公式テクノロジーパートナー※として、AI・データ分析等のテクノロジー提供により、会場やレース運営の高度化、ファン体験の向上等に貢献
- 「INDYCAR」での実績とブランドへの信頼等をもとに、2027年1月より、世界を転戦するFormula1（F1）の名門チームを運営する「マクラーレン・レーシング」とのパートナーシップを開始

INDYCARにおけるテクノロジー提供とブランド認知向上

「AI」と「大規模なリアルタイムデータ分析」の提供



会場ソリューション
（混雑やリスク予測）



INDYCAR App
（AIでレース展開を自動要約）

ブランド認知の向上

FREEDOM 250 GRAND PRIX
8/22-23　ワシントンDC



F1 マクラーレン・レーシングとのパートナーシップ

AIセキュリティガバナンス等における技術支援・協力

FORMULA 1® TEAM

OFFICIAL PARTNER

- 両者の顧客/ファン基盤を活かしたビジネス共創
- 北米に加え、中南米・欧州・アジアでの認知向上

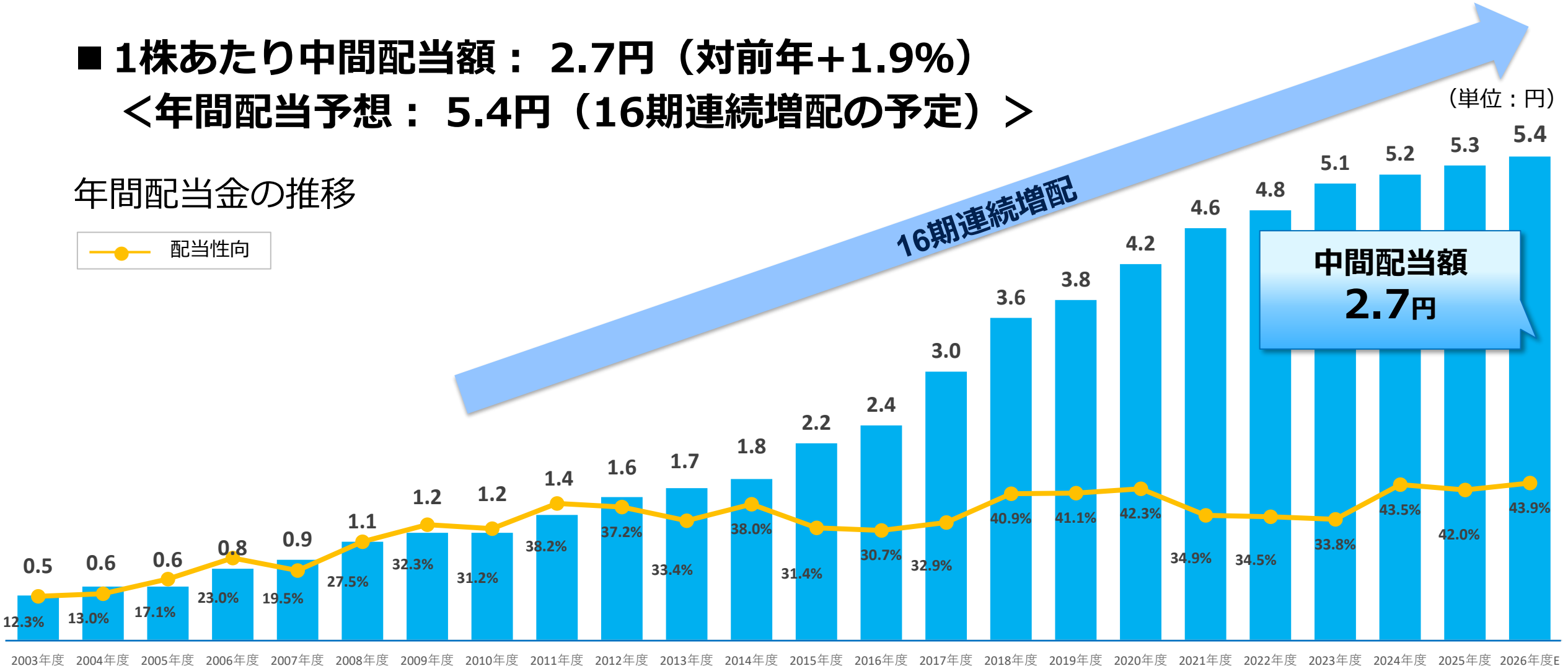
© NTT, Inc. 2026

※ 2019年よりNTT・ NTTデータグループがタイトルスポンサー、NTTデータグループが公式テクノロジーパートナー

中間配当の実施

■ 1株あたり中間配当額： 2.7円（対前年+1.9%）
＜年間配当予想： 5.4円（16期連続増配の予定）＞

年間配当金の推移

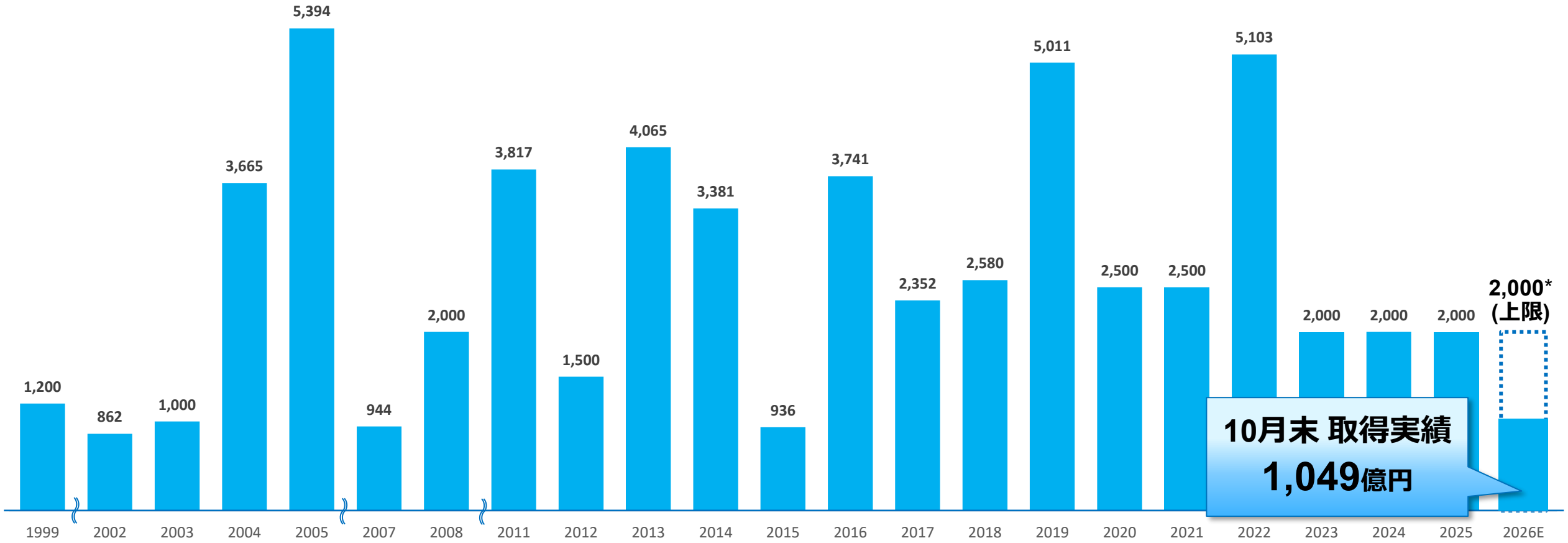


（注1）2009年1月4日を効力発生日として普通株式1株につき100株、2015年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株、2020年1月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株、2023年7月1日を効力発生日として普通株式1株につき25株の割合をもって株式分割を行っており、1株当たり配当額について当該株式分割調整後の数値を記載しています。
（注2）2017年度以前は米国会計基準、2018年度以降は国際財務報告基準（IFRS）を適用

© NTT, Inc. 2026

自己株式取得の推移

■10月末実績： 1,049億円
＜2027年3月末までの取得枠： 2,000億円（上限）＞



* 2026年5月8日に2,000億円（上限）の自己株式取得を決議。取得期間：2026年5月11日～2027年3月31日

© NTT, Inc. 2026

中期経営戦略の進捗について

～2026年8月からの進捗～

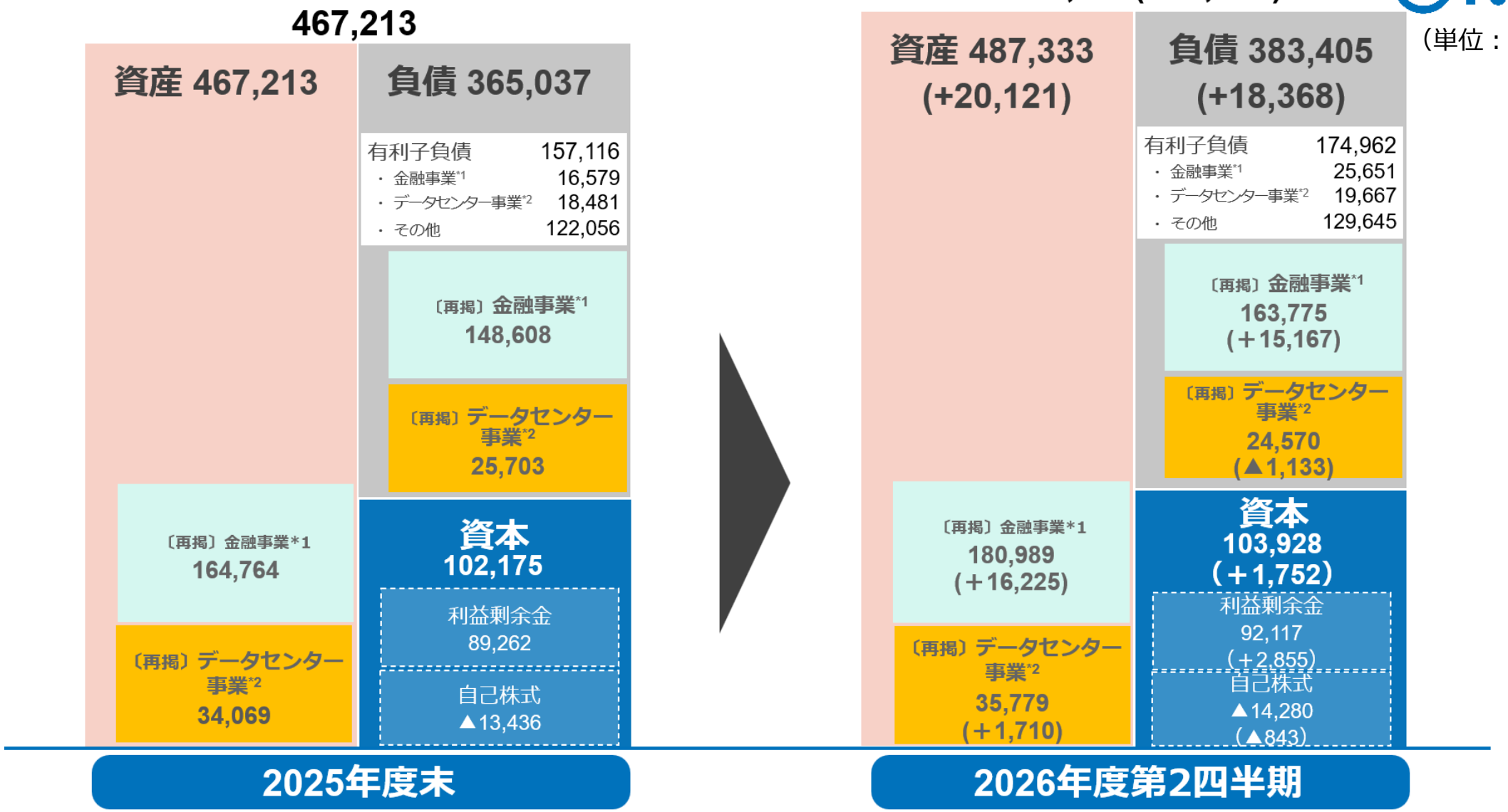
バリュー分野	・東京電力パワーグリッドと、コンテナDCを活用したデータセンター分散化の取り組みを開始（NTTドコモビジネス・8月） ・AI時代のサイバーセキュリティ強化に向け、パロアルトネットワークスと戦略的グローバルアライアンスを締結（NTTデータグループ・8月） ・1GPUから利用可能なAI開発基盤「GPUaaS」を提供開始（NTTドコモビジネス・9月） ・金融領域におけるサービス強化と新サービス創出に向けミンカブ・ジ・インフォノイドとの資本業務提携、また、SBIホールディングスとミンカブ・ジ・インフォノイドとの業務提携を発表（NTTデータ・9月） ・WOWOWと「Lemino」共同事業化、コンテンツラインナップを大幅拡充（NTTドコモ・10月）
コネクティビティ分野	・9月から「docomo Starlink Direct」の国際ローミング接続を開始し、順次対象国を拡大中。また、さらなる機能拡充に向けStarlinkと次世代衛星「Starlink Mobile V2」の契約合意を発表（NTTドコモ・8/9/10月） ・IOWN APNとボリュメトリックビデオ技術による世界初のスポーツ観戦体験の実証成功（NTT東日本、NTT西日本・9月） ・世界初 ノキア製最新型基地局装置のマルチベンダー構成による商用運用開始（NTTドコモ・9月） ・「IOWN AI Fund」がiPronicsへ初号出資、次世代AIインフラの実現とIOWNエコシステムの構築を推進（NTT・9月） ・次世代AIコンピューティングを支える光電融合デバイスの革新的生産技術開発の本格化を発表（NTT・10月）
成長の継続に向けた戦略的な先行投資	・愛知県からの受託事業として名古屋市都心部で自動運転とオンデマンド配車システムを組み合わせた公道実証を開始（NTTドコモビジネス・NTTモビリティ・NTTドコモ・8月） ・宇宙と地上を結ぶ光通信の実用化のため、Cailabsと次世代光地上局開発に向けた協業を開始（NTT・9月） ・光量子コンピュータと光量子ネットワークの国際標準化議論の推進をITU-T 業界幹部会合で合意（NTT・10月）
循環型社会の実現	・国内外の全保有物件において 使用電力の再生可能エネルギー100%化を達成（NTTアーバンソリューションズ・8月） ・太陽光発電所と系統用蓄電所を組み合わせたHourly Matchingの実証を開始（NTTアノードエナジー、NTTドコモ・9月）
事業基盤の更なる強靭化	・アーバンネット札幌リンクタワーとハイアット セントリック 札幌がグランドオープン（NTTアーバンソリューションズ・10月）
従業員体験（EX）の高度化	・自律的なキャリア形成支援と事業成長に向けた、オファー型人事制度「NTT Group Job Scout」を開始（NTT・10月）

© NTT, Inc. 2026

Appendix

© NTT, Inc. 2026

連結貸借対照表の状況



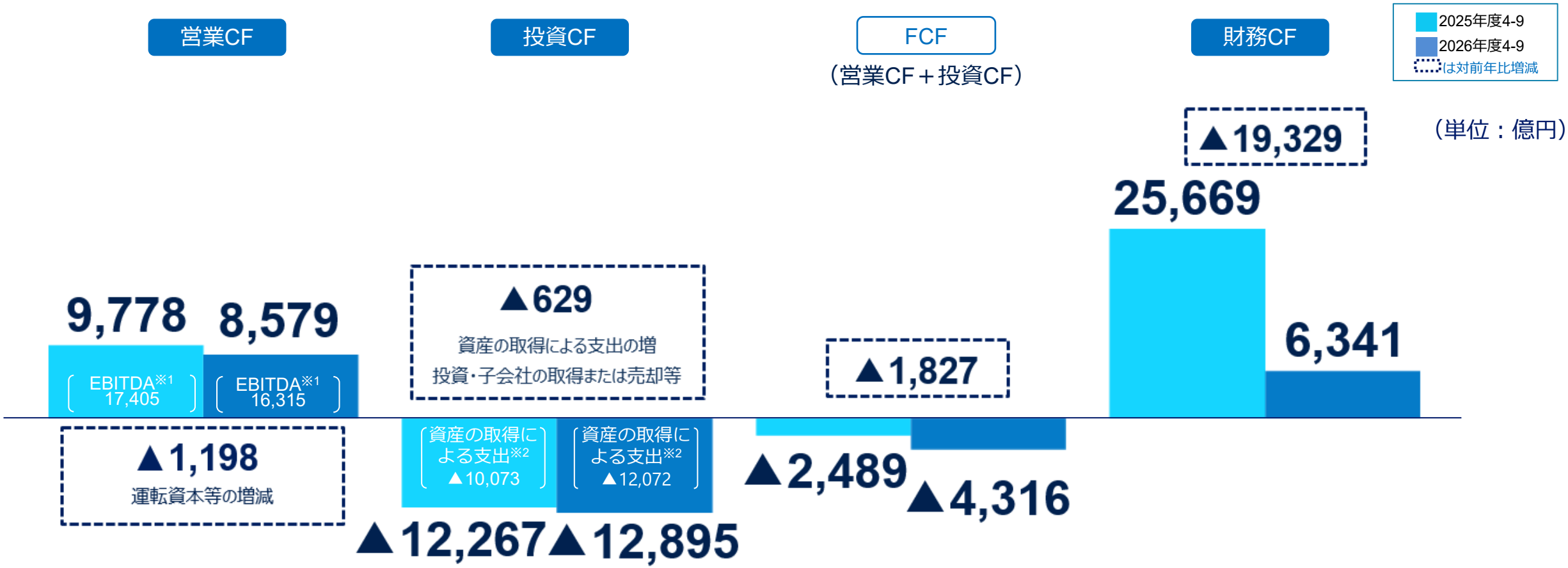
（単位：億円）

*1 金融事業の各数値の集計範囲について、2026年度第2四半期はNTTドコモ・フィナンシャルグループ連結値（IFRS）、2025年度末はNTTドコモグループのスマートライフに含まれる金融事業の社内管理数値をもとに、2026年7月実施の金融事業における事業再編および「NTTドコモ・フィナンシャルグループ」体制への移行を前提とした数値を記載しており、非監査の参考値です。
NTTドコモ・フィナンシャルグループ連結値は、NTTドコモ・フィナンシャルグループ単体のほか、ドコモSMTBネット銀行連結、ドコモ・インシュアランス単体、ドコモマネックスホールディングス連結及びドコモ・ファイナンス連結の数値を含んでいます。

*2 データセンター事業の各数値の集計範囲は、グローバル・ソリューション事業セグメントのGlobal Technology Services Unitのデータセンター事業、総合ICT事業セグメントのNTTドコモビジネスグループ、地域通信事業セグメントのNTT東日本及びNTT西日本の各社内管理数値であり、一定の前提に基づき算定した数値を一部含む、非監査の参考値です。内部取引相殺消去等実施前の各社別の数値を合算しています。

© NTT, Inc. 2026

連結キャッシュ・フローの状況（ドコモSMTBネット銀行連結影響等を除く）

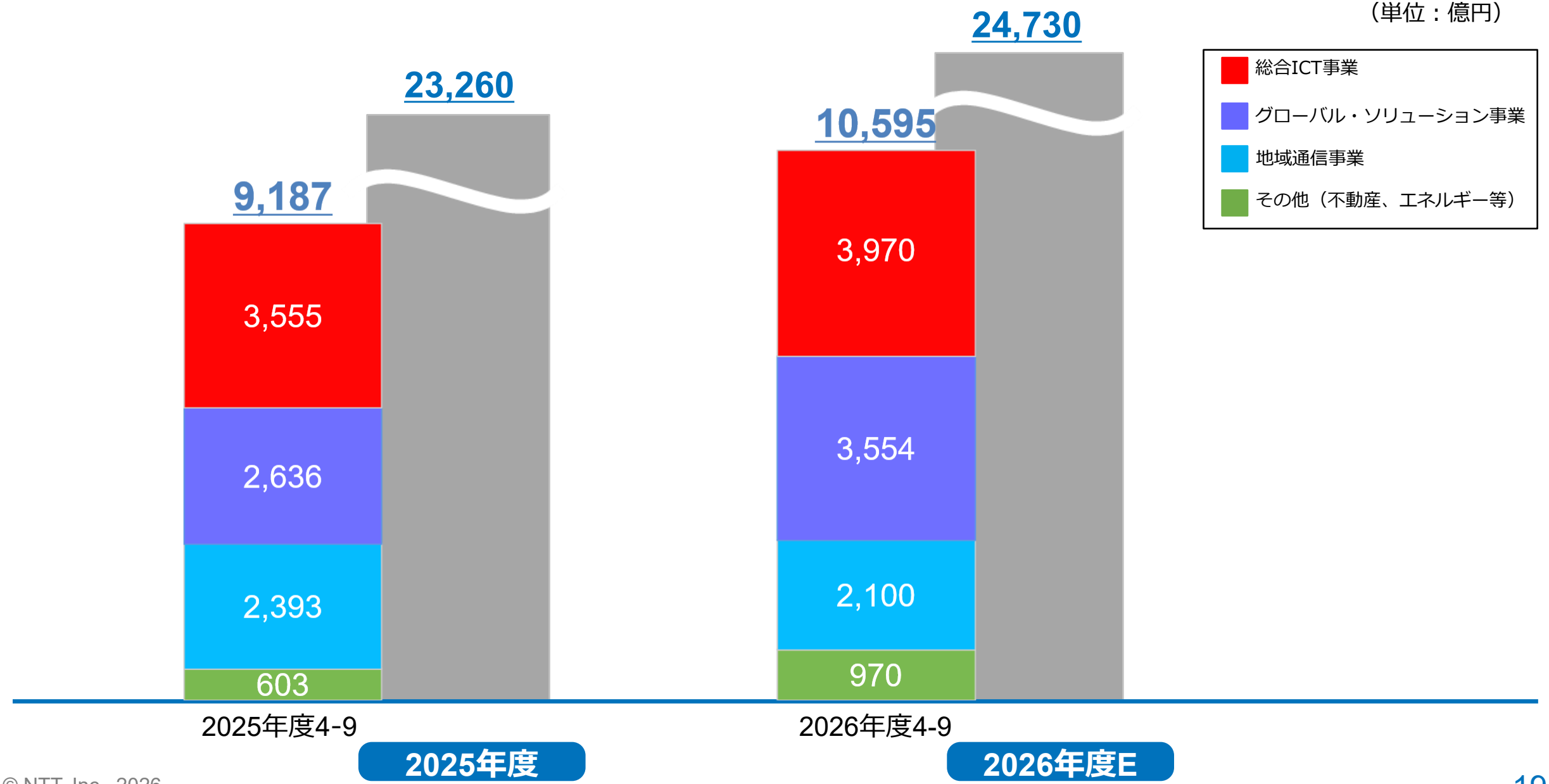


※1 営業利益に減価償却費（使用権資産に係る減価償却費除く）、固定資産売却損及び固定資産除却損、減損損失を加算調整
※2 有形固定資産・無形資産及び投資不動産の取得による支出
（参考）NTT連結キャッシュ・フロー
営業CF　：　464億円　対前年▲9,314億円
投資CF　：　▲14,103億円　対前年▲1,836億円
財務CF　：　16,200億円　対前年▲9,469億円
2026年度第2四半期末現金及び現金同等物：21,727億円（ドコモSMTBネット銀行連結9,487億円を含む）

© NTT, Inc. 2026

設備投資額の状況

（単位：億円）



© NTT, Inc. 2026

Innovating a Sustainable Future for People and Planet


NTT